

令和 3 年

火災と救急・救助の概要



三木市消防本部

目 次

[火災概要]

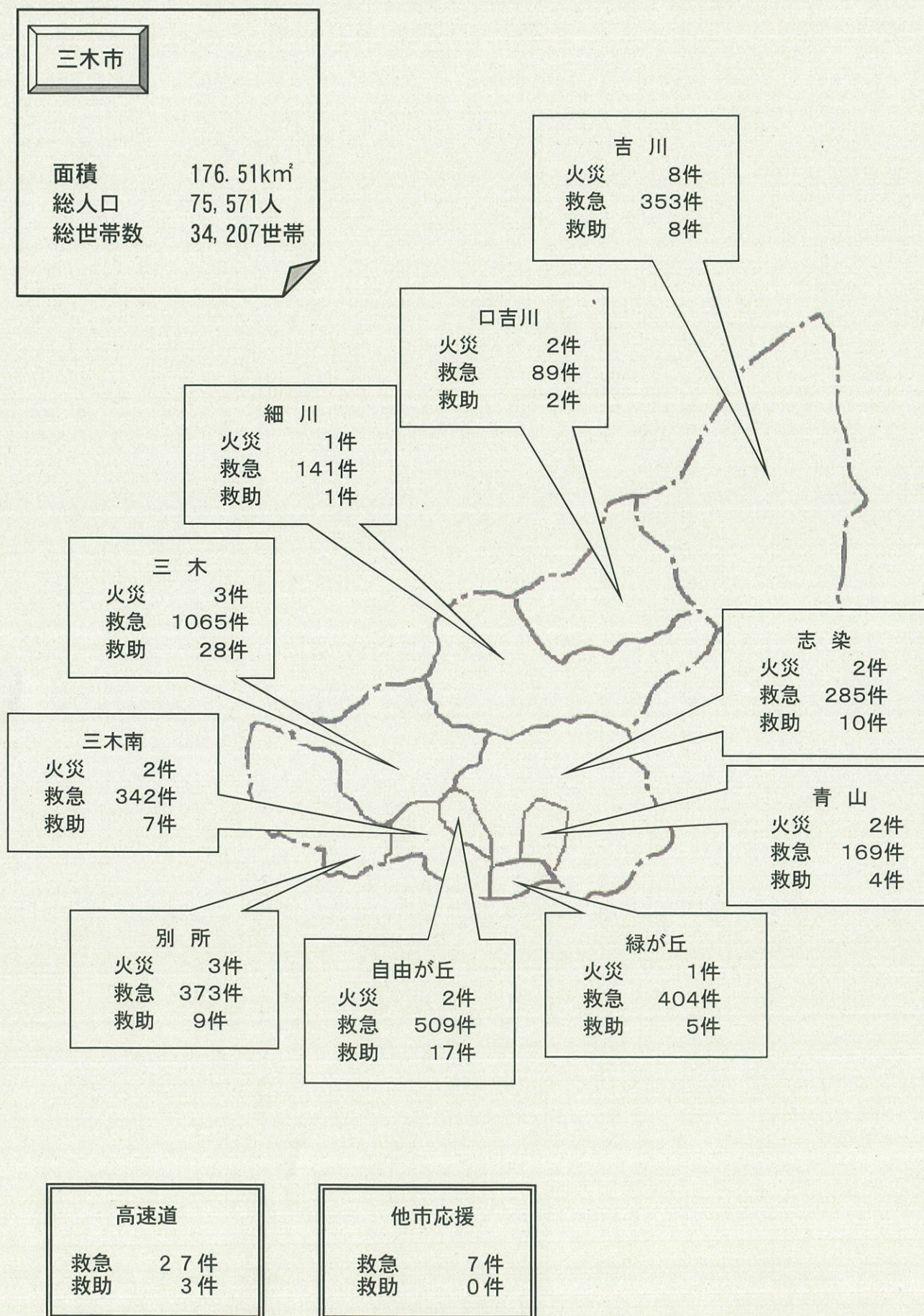
地区別発生件数	… 1	火災による損害額（５年間）	… 8
令和３年中の火災概要	… 2～3	管内出火件数・	
火災概要（対前年比）	… 4	損害額の推移（５年間）	… 8
火災の発生状況		出火原因別件数	… 9
地区別出火件数	… 5	初期消火の状況	… 9
月別火災種別出火件数	… 5	火災による死者数（１０年間）	… 10
四季別出火件数	… 6	主な火災発生状況	… 10
月別出火件数（５年間）	… 6	高速道路における火災発生状況	… 11
曜日別出火件数	… 6	消防部隊出動状況（対前年比）	… 11
時間別出火件数	… 7		
署別出火件数	… 7		

[救急・救助概要]

令和３年中の救急・救助概要	… 12～14	事故種別救急搬送人員	… 19
救急出場件数	… 15	傷病程度別救急搬送人員	… 19
発生地区別出場件数	… 15	発生場所別救急出場件数	… 20
署別救急出場件数	… 15	事故種別年齢別搬送人員	… 20
救急出場件数の推移	… 16	性別科目別搬送人員	… 20
事故種別救急出場件数	… 16	高速道路における救急活動状況	… 21
月別救急出場件数	… 17	応急処置件数	… 21
曜日別救急出場件数	… 17	救助出動状況	… 22
時間別救急出場件数	… 18	地区別救助出動件数	… 22
現場到着所要時間別救急出場件数	… 18	発生場所別救助出動件数	… 22
病院収容所要時間別搬送人員	… 19		

地区別発生件数

〔人口・世帯数については
令和3年12月31日現在〕



令和３年中の火災概要

１．概況

令和３年中の出火件数は２６件で、損害額は２１，９６３千円、建物焼損床面積７７３㎡、林野焼損面積８３９ａ、り災世帯１２世帯、り災人員２４人となっています。

２．出火件数

（１）出火件数

出火件数は２６件（前年比４件減）で、１４日に１件の割合で発生しています。

出火率（人口１万人当りの出火件数）は３．４４ポイント（前年比０．４８ポイント減）となっています。

（２）火災種別毎の出火件数

建物火災１５件（５８％、前年比５件増）が最も多く、次いでその他の火災７件（２７％、前年比２件減）、林野火災３件（１１％、前年比４件減）、車両火災１件（４％、前年比３件減）となっています。

建物火災の内訳は、住宅８件、工場１件、倉庫３件、その他建物３件となっています。

（３）死者・負傷者

令和３年中の火災による死者は２人（前年比同値）、負傷者は４人（前年比同値）となっています。

（４）焼損棟数

焼損棟数は２０棟（前年比９棟増）で、全焼棟数は４棟（前年比１棟増）となっています。

（５）り災世帯・り災人員

り災世帯は１２世帯（前年比３世帯増）で、り災人員は２４人（前年比１人減）となっています。

（６）焼損面積

建物焼損床面積は７７３㎡（前年比４５７㎡増）で、林野焼損面積は８３９ａ（前年比７８２ａ増）となっています。

(7) 出火原因

出火原因のトップは「たき火」の10件となっており、「不明（調査中含む）」が4件、「配線器具」が3件、「電気機器」が2件、「たばこ」「炉」「焼却炉」「電灯・電話等の配線」「内燃機関」「放火」「放火の疑い」が各1件となっています。

(8) 損害額

火災による損害額は21,963千円（前年比4,202千円増）となっています。

建物損害額（収容物含む）は21,405千円（前年比4,587千円増）で、建物火災1件あたりの損害額は1,427千円（前年比255千円減）となっています。

3. まとめ

令和3年中の出火件数は26件（前年比4件減）、損害額は21,963千円（前年比4,202千円増）、火災による死者は2人（前年比同値）、負傷者は4人（前年比同値）です。

火災を防ぐためには、一人ひとりが防火に対する意識を持ち、少しでも知識を身につけていただくことが大切です。

近年、たき火からの火災が多く発生しています。たき火からの火災を防ぐためには事前に水バケツなど消火用具を準備、周囲の地形等の調査及び近隣住民に知らせておく必要があります。火を扱う行為を安易に考えず、注意事項を確認の上慎重に実施していただくことが大切です。

住宅防火対策として、住宅用火災警報器が設置されていたことで、火災を早期に発見でき大事に至らなかった奏功事例もあることから、住宅用火災警報器の設置及び維持管理について啓発してまいります。

火災概要（対前年比）

出火件数は前年と比べ4件減少。火災種別では建物火災が5件増加、林野火災4件、車両火災3件、その他火災が2件減少しています。

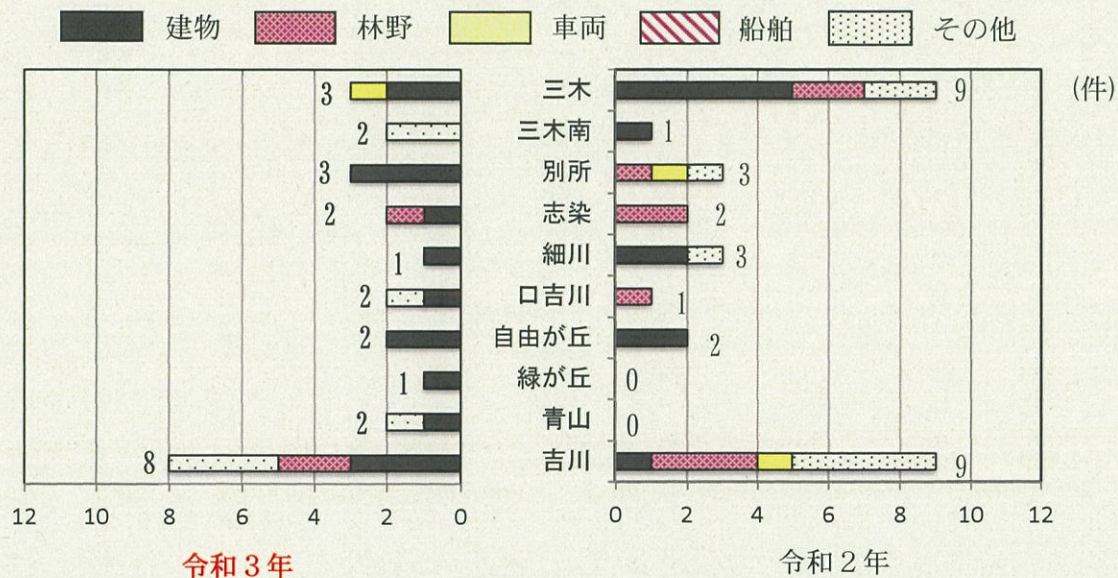
区 分			単 位	令和 3 年	令和 2 年	増 減		
出 火 件 数			件	26	30	△ 4		
	建 物		〃	15	10	5		
		内	住 宅	〃	8	4	4	
			工 場	〃	1	1	0	
			訳	その他	〃	6	5	1
	林 野		〃	3	7	△ 4		
	車 両		〃	1	4	△ 3		
	船 舶		〃	0	0	0		
	そ の 他		〃	7	9	△ 2		
損 害 額			千円	21,963	17,761	4,202		
	建 物		〃	21,405	16,818	4,587		
		内	建 物	〃	19,169	13,770	5,399	
			訳	収 容 物	〃	2,236	3,048	△ 812
			林 野		〃	0	0	0
	車 両		〃	10	915	△ 905		
	船 舶		〃	0	0	0		
	そ の 他		〃	548	28	520		
	爆 発		〃	0	0	0		
建 物 焼 損 棟 数			棟	20	11	9		
	全 焼		〃	4	3	1		
	半 焼		〃	1	0	1		
	部 分 焼		〃	9	4	5		
	ぼ や		〃	6	4	2		
爆 損	損害棟数		棟	0	0	0		
	車両等数		台	0	0	0		
焼 損	建物床面積		m ²	773	316	457		
	建物表面積		m ²	252	130	122		
	林 野		a	839	57	782		
	車 両		台	1	3	△ 2		
	船 舶		艇	0	0	0		
負 傷 者			人	4	4	0		
死 者			〃	2	2	0		
り 災 世 帯			世帯	12	9	3		
	全 損		〃	2	2	0		
	半 損		〃	1	0	1		
	小 損		〃	9	7	2		
り 災 人 員			人	24	25	△ 1		
建物 1 件当りの損害額			千円	1,427	1,682	△ 255		
〃 焼損床面積			m ²	52	32	20		

※損害額については、調査中1件を除く。

△ 印は減少

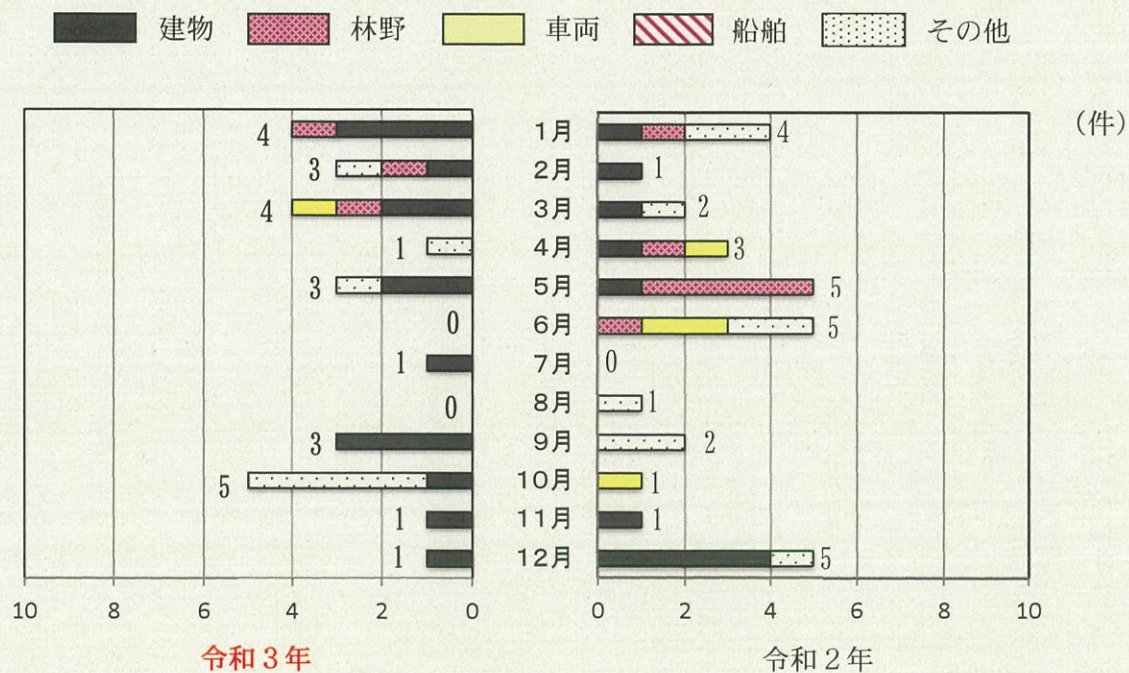
地区別出火件数

前年と比較すると、三木南地区、口吉川地区、緑が丘地区、青山地区が増加し、三木地区、細川地区、吉川地区は減少、その他の地区については増減はありませんでした。



月別火災種別出火件数

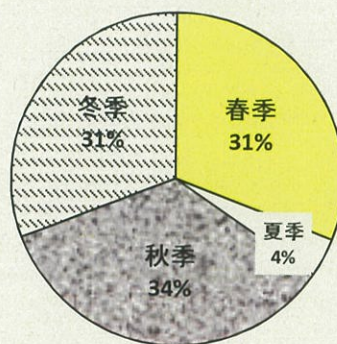
前年と比較すると、2月・3月・7月・9月・10月が増加し、4月・5月・6月・8月・12月が減少しています。



四季別出火件数

春季(3・4・5月)	8 件
夏季(6・7・8月)	1 件
秋季(9・10・11月)	9 件
冬季(12・1・2月)	8 件
計	26 件

出火件数比率

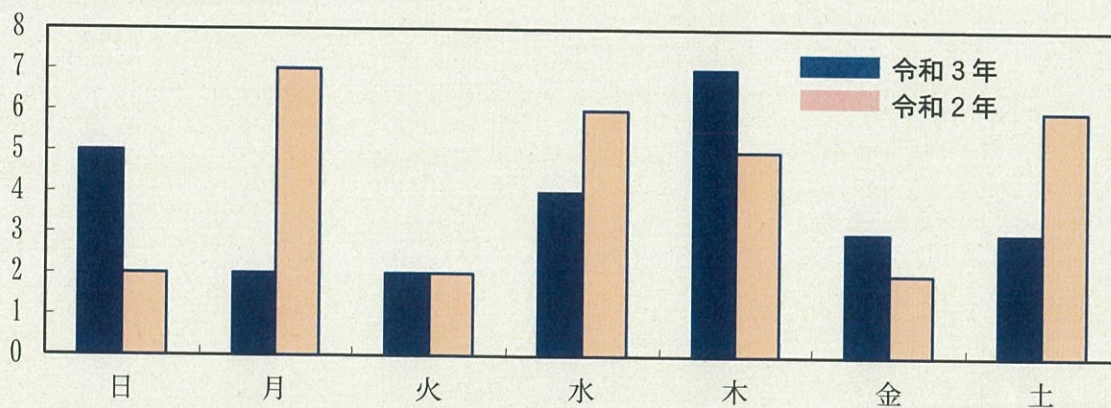


月別出火件数（5年間）

年 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
令和3年	4	3	4	1	3	0	1	0	3	5	1	1	26
令和2年	4	1	2	3	5	5	0	1	2	1	1	5	30
令和元年	0	2	2	2	2	4	0	1	4	2	1	2	22
平成30年	5	0	2	5	2	1	2	4	0	1	4	2	28
平成29年	1	3	7	1	8	1	3	2	4	1	2	6	39

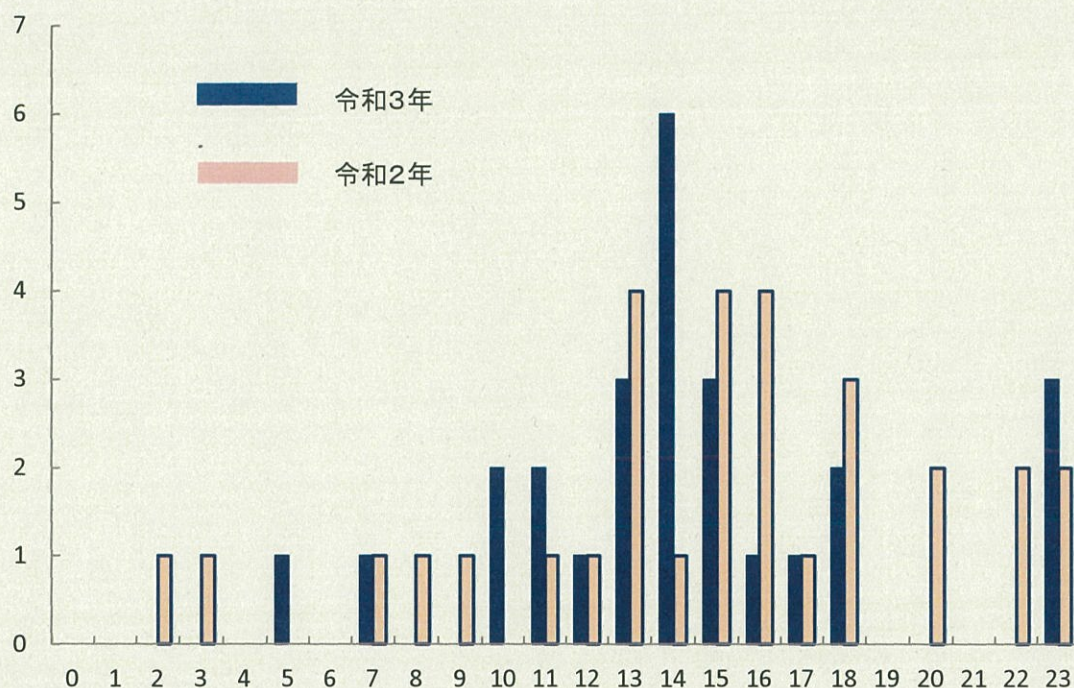
曜日別出火件数

木曜日（7件）、日曜日（5件）、水曜日（4件）に多く発生しています。



年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和3年	5	2	2	4	7	3	3	26
令和2年	2	7	2	6	5	2	6	30

時間別出火件数



時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
令和3年	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	2	1	3	6	3	1	1	2	0	0	0	0	3	26
令和2年	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1	1	4	1	4	4	1	3	0	2	0	2	2	30

署別出火件数

本署は火災件数が7件減少、広野分署は3件の増加しており、吉川分署は11件同値となっています。

種別	建物		林野		車両		船舶		その他		合計	
年	令和3年	令和2年	令和3年	令和2年	令和3年	令和2年	令和3年	令和2年	令和3年	令和2年	令和3年	令和2年
署別												
本署	6	6	1	2	1	3	0	0	0	4	8	15
広野分署	4	2	0	1	0	0	0	0	3	1	7	4
吉川分署	5	2	2	4	0	1	0	0	4	4	11	11
合計	15	10	3	7	1	4	0	0	7	9	26	30

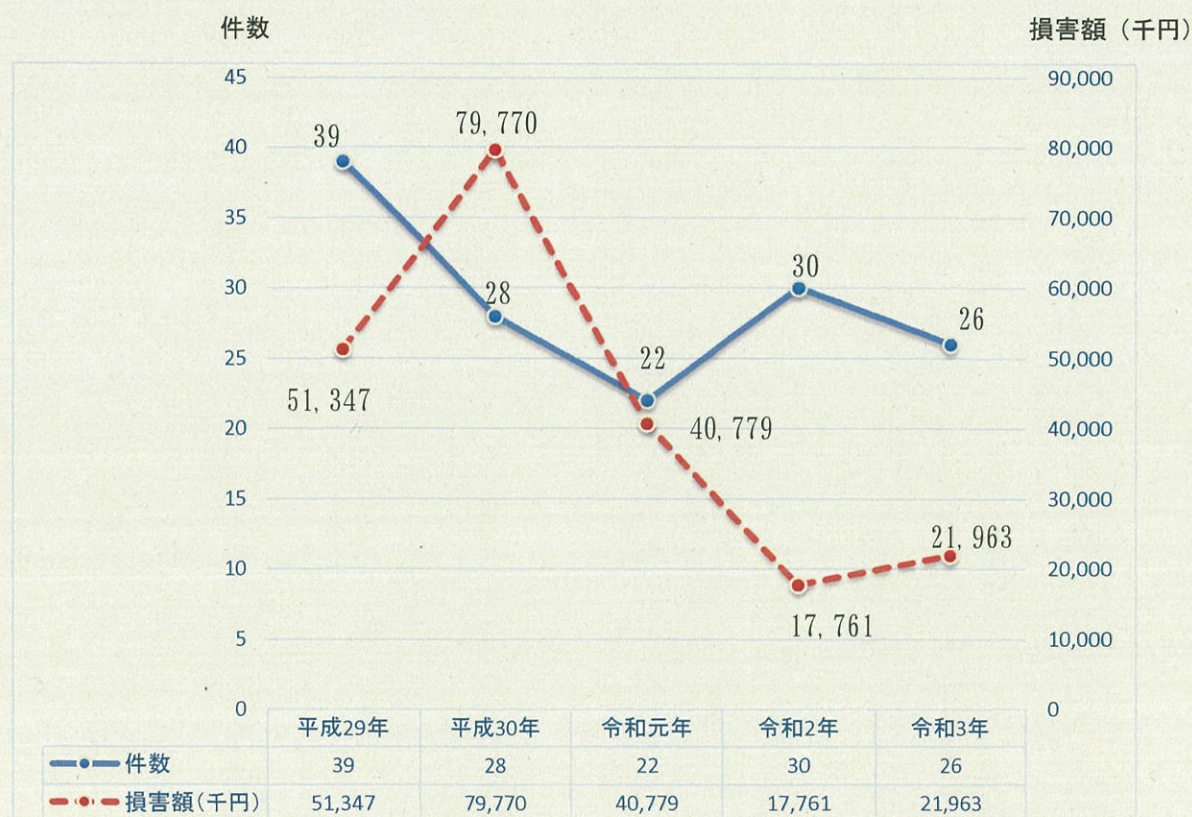
火災による損害額（5年間）

(損害額単位：千円)

項 目	年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年
火災損害額		21,963	17,761	40,779	79,770	51,347
内訳	建物	21,405	16,818	38,406	74,185	46,586
	林野	0	0	0	0	0
	車両	10	915	1,863	4,520	1,361
	船舶	0	0	0	0	0
	その他	548	28	510	1,065	3,400
1件当り損害額		845	592	1,854	2,849	1,317
出火件数		26	30	22	28	39
内訳	建物	15	10	10	18	18
	林野	3	7	4	1	2
	車両	1	4	4	4	6
	船舶	0	0	0	0	0
	その他	7	9	4	5	13

※ 火災損害額のその他に爆発損害を含む。

管内出火件数・損害額の推移（5年間）



出火原因別件数

出火原因のトップは「たき火」の10件で、全体の約38%を占めています。

出火原因	令和3年	令和2年
たばこ	1	1
こんろ		1
風呂かまど		
炉	1	
焼却炉	1	
ストーブ		1
こたつ		1
ボイラー		
煙突・煙道		
排気管		
電気機器	2	1
電気装置		3
電灯・電話等の配線	1	2
内燃機関	1	
配線器具	3	1
火あそび		
マッチ・ライター		
たき火 ※1	10	12
溶接機・溶断機		
灯火		
取灰		
火入れ		
放火	1	
放火の疑い	1	2
その他 ※2		3
不明（調査中含む）	4	2
合計	26	30

※1

たき火欄内訳	令和3年	令和2年
たき火	5	6
虫焼火	5	6
合計	10	12

※2

その他欄内訳	令和3年	令和2年
金属との衝撃の火花		1
サウナヒーター		1
火のついたゴミ		1
合計	0	3

初期消火の状況

令和3年は26件の火災が発生し、そのうち14件で何らかの初期消火を行っています。

項目	令和3年		令和2年	
	実施	有効	実施	有効
消火器以外の消防用設備	0	0	0	0
水バケツ	0	0	0	0
消火器	3	2	9	3
水道・浴槽・汲み置きの水	9	5	8	4
寝具・衣類等をかけた	1	1	0	0
もみ消した	1	0	2	0
その他	0	0	2	1
合計	14	8	21	8
初期消火なし	12		9	

火災による死者数(10年間)

地区\年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年
三 木		1		1	1	1	1			1
三木南										
別 所					1					
志 染										
細 川	1	1			1					
口吉川										
緑が丘										
自由が丘										1
青 山										
吉 川	1									1
合 計	2	2	0	1	3	1	1	0	0	3
兵庫県	—	53	53	72	57	54	62	70	60	70
全 国	—	1,321	1,486	1,422	1,456	1,452	1,678	1,625	1,721	1,766

※令和3年の全国・兵庫県の統計については、現時点では発表されていません。

主な火災発生状況

発生 月日	火災 種別	覚知 時間	鎮火 時間	発生場所	火災状況
2/14	林野	13:49	0:30	志染町戸田字長坂 1883-15 (大正池北東側山林)	畦焼きを実施中に火の粉が山林に飛び火し、落ち葉に着火。その後、風に煽られ延焼拡大したものの。
11/4	建物	14:35	17:06	吉川町上松	たき火の処理が不十分で再燃し家屋へ延焼したものの。

高速道路における火災発生状況

高速道路における火災は1件となっています。

発生 月日	火災 種別	覚知 時間	鎮火 時間	発生場所	火災状況
3/31	車両	14:21	14:33	山陽自動車道上り 27.5キロポスト付近	商業用2トントラックから出火し、 エンジンオイル圧力センサーが焼損 したもの。

消防部隊出動状況（対前年比）

部隊出動件数は、昨年より3件増加の224件となっています。

署 別		本 署		広野分署		吉川分署		合 計		増 減
種 別	年	令和 3年	令和 2年	令和 3年	令和 2年	令和 3年	令和 2年	令和 3年	令和 2年	—
警 戒		104	129	52	42	61	43	217	214	3
応 援		0	2	1	0	4	3	5	5	—
風 水 害		1	1	1	0	0	1	2	2	—
合 計		105	132	54	42	65	47	224	221	3

※「警戒」 偵察・煙火・自火報・誤報・救急支援・油処理・ガス漏洩・その他

「応援」 近隣応援(境界、管轄高速道への出動)

令和 3 年中の救急・救助概要

1. 概況

令和 3 年中の救急出場件数は 3, 764 件（前年比 142 件、3.9% 増）で、搬送人員は 3, 499 人（前年比 167 人、5.0% 増）と、いずれも前年を上回りました。

1 日の平均出場件数は 10.3 件（前年比 0.4 件増）で、市民約 20 人に 1 人が救急車を利用したことになります。

令和 3 年中の救助出動件数は 94 件（前年比 24 件増）となっています。

2. 救急出場件数

(1) 救急出場件数

出場件数は 3, 764 件（前年比 142 件、3.9% 増）で、前年を上回りました。

(2) 発生地区別出場件数

三木地区の 1, 065 件（28.3%）が最も多く、続いて自由が丘地区 509 件（13.5%）、緑が丘地区 404 件（10.7%）、別所地区 373 件（9.9%）の順となっています。

(3) 事故種別出場件数

事故種別では急病 2, 336 件（62.1%）が最も多く、続いて一般負傷 694 件（18.4%）、転院搬送 309 件（8.2%）、交通事故 270 件（7.2%）の順となっています。

(4) 月別・曜日別・時間別状況

月別では 12 月の 388 件が最も多く、続いて 7 月の 361 件、1 月の 356 件の順となっています。最も少ないのは 2 月の 257 件です。

曜日別では金曜日の 569 件が最も多く、続いて月曜日・水曜日の 565 件です。最も少ないのは日曜日の 479 件です。

時間別では 9 時台・10 時台の 257 件が最も多く、続いて 13 時台の 245 件です。最も少ないのは 4 時台の 45 件です。

(5) 現場到着所要時間（覚知～現場到着）

平均所要時間は 8.0 分（前年 7.7 分）、5 分以上 10 分未満のものが 2, 547 件（67.7%）と最も多く、続いて 10 分以上 20 分未満が 783 件（20.8%）となっています。

(6) 病院到着所要時間（覚知～病院収容）

平均所要時間は 40.6 分（前年 39.9 分）、30 分以上 60 分未満のものが 2, 404 件（68.7%）と最も多く、続いて 20 分以上 30 分未満が 714 件（20.4%）となっています。

3. 救急搬送人員

(1) 傷病程度別搬送人員

軽症 1, 754 人（50.1%）、中等症 1, 604 人（45.8%）、重症 96 人（2.8%）、死亡 45 人（1.3%）の順となっています。

(2) 事故種別年齢別搬送人員

急病の2,150人(61.4%)が最も多く、続いて一般負傷643人(18.4%)、転院搬送309人(8.8%)の順となっています。

また、年齢別では65歳以上の高齢者が2,315人(66.2%)を占めています。

(3) 性別・科目別搬送人員

男性1,945人(55.6%)、女性1,554人(44.4%)で、391人男性を多く搬送しています。

内科1,823人(52.1%)が最も多く、続いて整形外科655人(18.7%)、脳神経外科593人(16.9%)、外科232人(6.6%)の順となっています。

4. 応急処置件数

全搬送人員3,499人に対して、応急処置を実施しており、応急処置件数は、延べ14,075件となっています。

血中酸素飽和度測定と血圧測定が多く、救急救命士による傷病者の蘇生等のために行う特定行為は158件(前年比24件増)となっています。

5. 救助件数

(1) 救助出動状況

出動件数は94件(前年比24件増)で、救助人員46人(前年比12人増)となっています。事故種別では、建物等による事故が45件(47.9%)と最も多く、続いて交通事故32件(34.0%)となっています。

(2) 地区別救助出動件数

三木地区が28件と最も多く、続いて自由が丘地区17件、志染地区10件の順となっています。

(3) 発生場所別救助出動件数

住居での事故等が50件(53.2%)で、道路での事故が26件(27.7%)となっています。

6. 救急業務の高度化

高度救急資器材の整備に努めるとともに、気管挿管、薬剤(アドレナリン)投与、心肺機能停止前の輸液、低血糖発作傷病者へのブドウ糖投与が行える認定救命士の養成を行っています。

また、消防機関の担う救急業務の更なる高度化を実現するため、医師による指導、助言、事後検証、再教育等、メディカルコントロール体制の充実を図っています。

7. まとめ

救急出場件数は3,764件で、前年の出場件数より142件増加しました。

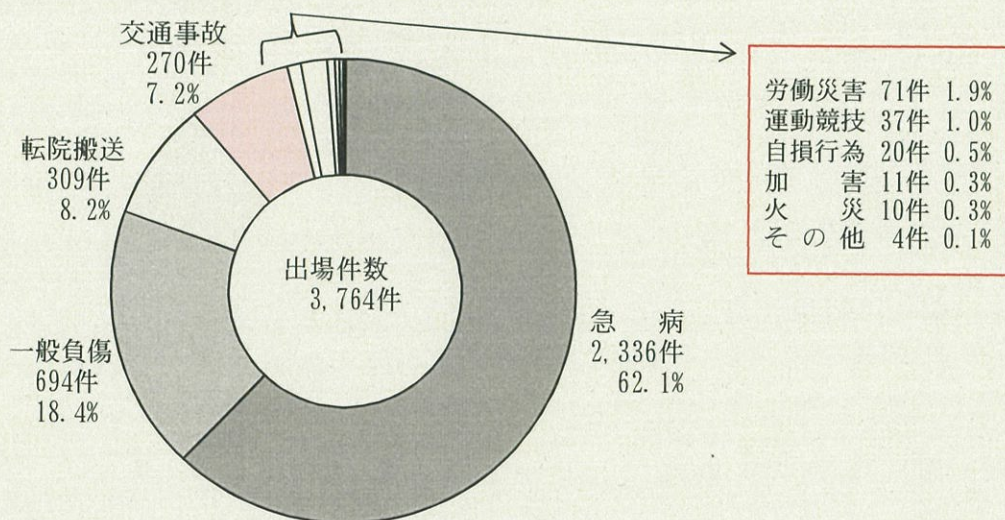
全搬送人員に占める高齢者の比率は66.2%（前年66.5%）で、昨年より0.3%減少しています。

救命率の向上には、その場に居合わせた人による適切な心肺蘇生法と早期除細動（AED）が必要不可欠であることから、応急手当普及員の育成に努めるとともに、上級救命・普通救命講習、救急法講習会を継続的に開催していきます。また、広報等を通じて救急車の適正利用など救急業務への正しい理解と協力を求めてまいります。

救助出動件数については、建物等による事故が近年増加傾向にあり、過去5年間の救助出動件数368件のうち160件と全体の43.5%を占めています。主に一人暮らしの高齢者に対する安否確認による出動となっています。

救急出場件数

救急出場件数 3,764 件のうち急病が半数以上を占め、続いて一般負傷の順となっています。



発生地区別出場件数

三木地区が最も多く、続いて自由が丘地区となっています。

地区	令和3年	令和2年	令和元年
出場件数	3,764	3,622	4,038
三木	1,065	1,049	1,169
三木南	342	338	378
別所	373	337	364
志染	285	262	316
細川	141	116	151
口吉川	89	97	101
緑が丘	404	393	396
自由が丘	509	520	524
青山	169	154	162
吉川	353	331	418
高速道	27	19	53
その他	7	6	6

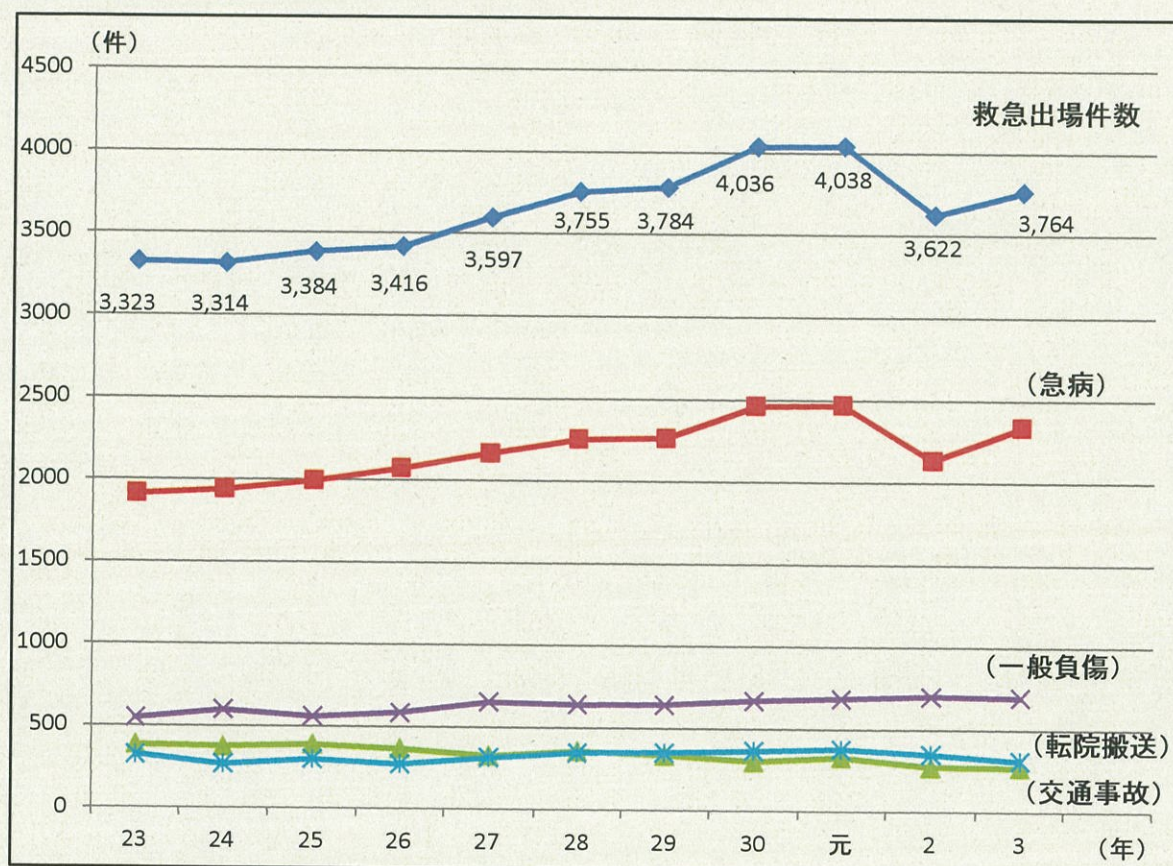
署別救急出場件数

出場割合は、本署 54.6%、広野分署 33.1%、吉川分署 12.3%となっています。

事故種別	本署	広野	吉川
火災	8	1	1
自然災害	0	0	0
水難	1	0	1
交通事故	169	75	26
労働災害	45	10	16
運動競技	18	14	5
一般負傷	368	228	98
加害	6	5	0
自損行為	10	5	5
急病	1,235	827	274
その他	195	80	38
合計	2,055	1,245	464

救急出場件数の推移

救急出場件数は3,764件で前年比142件増加となっています。



事故種別救急出場件数

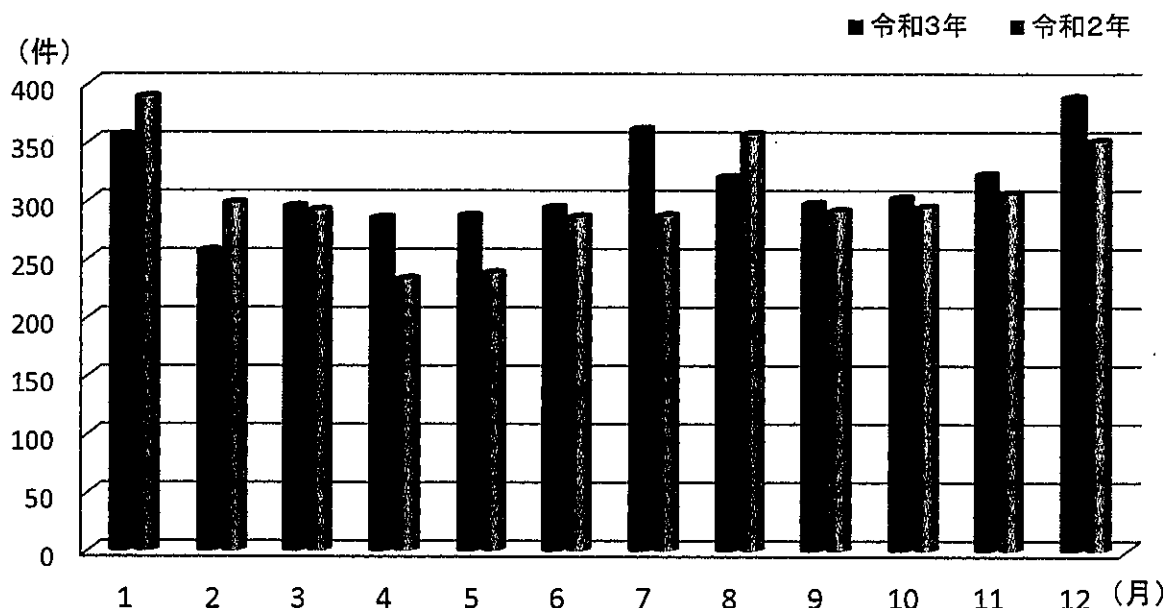
急病が昨年より201件増加しています。

事故種別		令和3年	令和2年	増減
火災		10	11	△1
自然災害		0	0	0
水難		2	0	2
交通事故		270	273	△3
労働災害		71	54	17
運動競技		37	50	△13
一般負傷		694	700	△6
加害		11	12	△1
自損行為		20	24	△4
急病		2,336	2,135	201
その他	転院搬送	309	349	△40
	医師搬送	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0
	その他	4	14	△10
合計		3,764	3,622	142

△印は減少

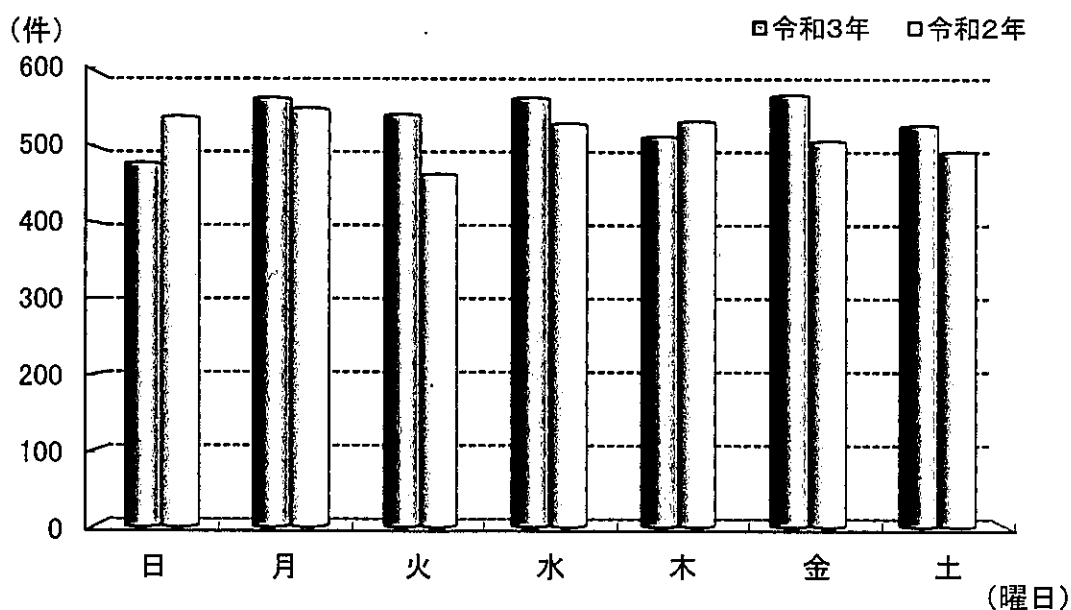
月別救急出場件数

12月が最も多く、続いて7月となっています。最も少ないのは2月です。
1ヶ月平均313.7件、1日平均10.3件出場しています。



曜日別救急出場件数

金曜日が最も多く、続いて月・水曜日となっています。最も少ないのは日曜日です。

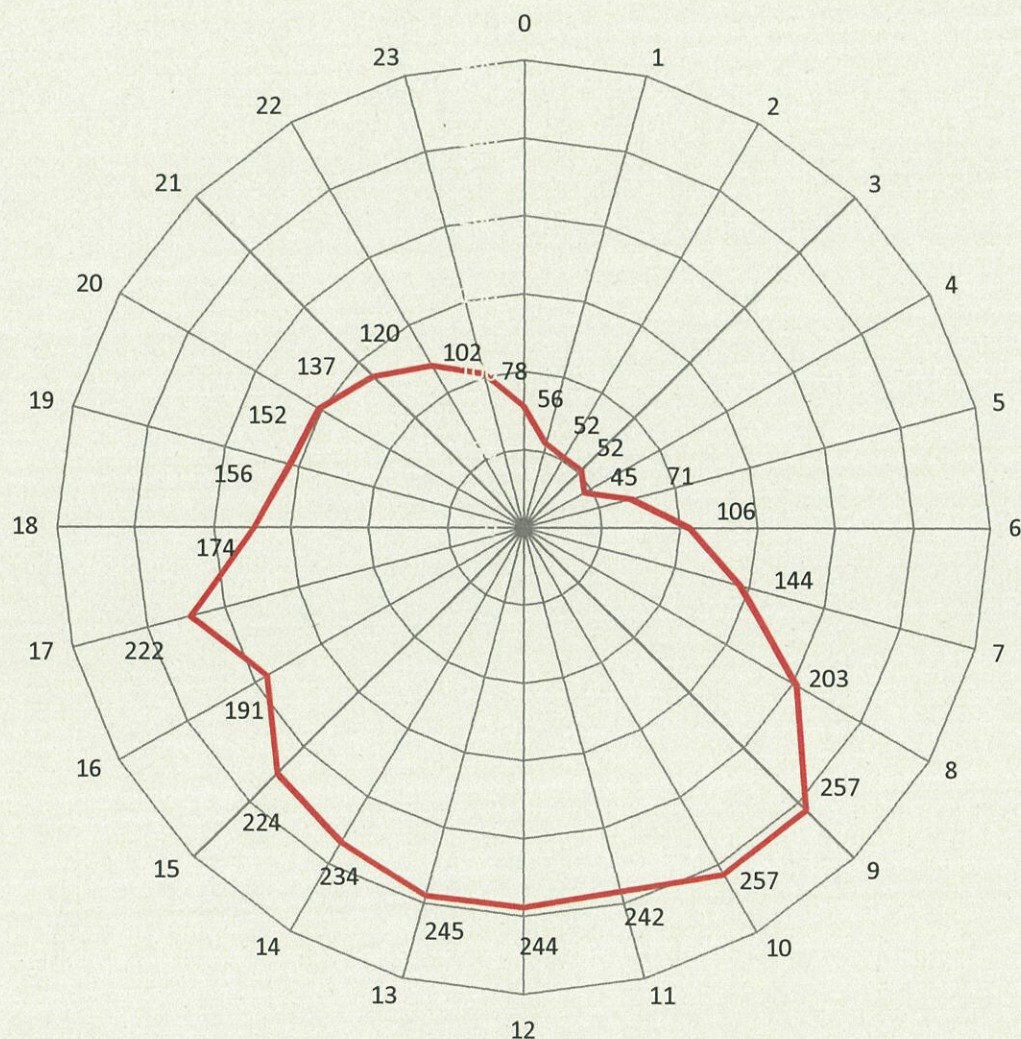


年 \ 曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和3年	479	565	543	565	514	569	529	3,764
令和2年	540	551	464	531	534	508	494	3,622

時間別救急出場件数

9時台・10時台が最も多く、最も少ないのは4時台です。

救急出場件数 3,764件



現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）

現場到着所要時間の平均は8.0分です。5分以上10分未満で現場到着したものが2,547件で、最も多くなっています。

事故種別	所要時間	3分未満	3分以上	5分以上	10分以上	20分以上	計	平均時間
			5分未満	10分未満	20分未満			(分)
急病		15	175	1,618	494	34	2,336	7.9
交通事故		5	26	161	69	9	270	8.5
一般負傷		3	55	478	144	14	694	8.1
その他		4	80	290	76	14	464	7.8
計		27	336	2,547	783	71	3,764	8.0

病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）

病院収容所要時間の平均は40.6分で、最も多いのが30分以上60分未満の2,404人で全体の68.7%を占めています。

事故種別\所要時間	10分未満	10分以上20分未満	20分以上30分未満	30分以上60分未満	60分以上120分未満	120分以上	計	平均時間(分)
急病	0	30	464	1,499	149	8	2,150	39.1
交通事故	0	2	29	177	55	2	265	48.6
一般負傷	0	1	101	446	95	0	643	43.6
その他	0	3	120	282	36	0	441	38.8
計	0	36	714	2,404	335	10	3,499	40.6

事故種別救急搬送人員

火災の減少と急病の増加が目立っています。

事故種別\年	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
令和3年	1	0	2	265	69	36	643	11	11	2,150	311	3,499
令和2年	6	0	0	264	53	50	647	8	16	1,941	347	3,332
増減	△5	0	2	1	16	△14	△4	3	△5	209	△36	167

△印は減少

傷病程度別救急搬送人員

軽症1,754人（50.1%）、中等症1,604人（45.8%）、重症96人（2.8%）、死亡45人（1.3%）の順となっています。

事故種別\傷病程度	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
死亡	0	0	1	1	1	0	2	0	2	38	0	45
重症	0	0	0	7	3	0	7	0	1	70	8	96
中等症	1	0	1	58	28	7	223	4	5	979	298	1,604
軽症	0	0	0	199	37	29	411	7	3	1,063	5	1,754
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	2	265	69	36	643	11	11	2,150	311	3,499

発生場所別救急出場件数

住宅内での発生が2, 262件で全体の60.1%を占め、そのうち急病によるものが79.5%です。

発生場所 事故種別	住宅	公衆出入 場 所	仕事場	道路	その他	計
急 病	1,798	359	58	80	41	2,336
交通事故	0	8	0	262	0	270
一般負傷	429	111	6	96	52	694
そ の 他	35	353	62	3	11	464
計	2,262	831	126	441	104	3,764

事故種別年齢別搬送人員

高齢者（65歳以上）の搬送が2,315人で全体の66.2%を占めています。

事故種別 年齢別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
新生児（28日未満）	0	0	0	1	1
乳幼児（28日～6歳）	66	9	46	1	122
少 年（7歳～17歳）	49	14	26	28	117
成 人（18歳～64歳）	543	160	104	137	944
高齢者（65歳以上）	1,492	82	467	274	2,315
計	2,150	265	643	441	3,499

性別科目別搬送人員

性別では男性が多くなっています。科目別では内科が1,823人で最も多く、整形外科、脳神経外科、外科の順となっています。

科目別	外科		整形外科		脳神経外科		内科		小児科		精神神経科	
性 別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	153	79	313	342	358	235	1,009	814	57	38	3	4
科目別	産婦人科		眼科		耳鼻科		泌尿器科		その他		合計	
性 別	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	21		3	3	15	6	34	9	0	3	1,945	1,554

高速道路における救急活動状況

高速道路別		事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
中国道	出動件数		4	1	1	0	6
	搬送人員		2	3	1	0	6
	不搬送件数		2	0	0	0	2
舞鶴道	出動件数		3	0	0	0	3
	搬送人員		3	0	0	0	3
	不搬送件数		0	0	0	0	0
山陽道	出動件数		12	5	0	1	18
	搬送人員		11	4	0	0	15
	不搬送件数		1	1	0	1	3
計	出動件数		19	6	1	1	27
	搬送人員		16	7	1	0	24
	不搬送件数		3	1	0	1	5

応急処置件数

応急処置		事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置対象人員(人)			2,150	265	643	441	3,499
止	血		7	7	44	15	73
被	覆		15	39	141	31	226
固	定		9	121	84	25	239
保	温		34	4	12	3	53
酸	素	吸 入	361	12	32	86	491
人	工	呼 吸	1	0	0	0	1
心	臓	マッサージ	0	0	0	0	0
心	肺	蘇 生	70	1	5	7	83
在	宅	療 法 継 続	21	0	1	0	22
血	圧	測 定	2,057	257	622	428	3,364
聴	診	器	304	65	37	25	431
血	中	酸素飽和度測定	2,088	260	639	432	3,419
心	電	図 測 定	1,449	91	195	216	1,951
気	道	確 保	112	1	12	11	136
	経	鼻エアウェイ	0	0	0	0	0
	喉	頭鏡・鉗子	1	0	1	0	2
	*	リンゲアルマスク等	40	0	1	2	43
	*	気管挿管	2	0	2	2	6
		以 外	69	1	8	7	85
除	細	動	13	0	1	2	16
*	静	脈 路 確 保	54	0	3	4	61
	*	うち心肺機能停止前	3	0	0	1	4
	*	うち心肺機能停止後	51	0	3	3	57
*	薬	剤 投 与	32	0	3	3	38
*	血	糖 測 定	8	0	0	0	8
*	ブ	ドウ糖 投 与	2	0	0	0	2
	そ	の 他	2,118	262	642	439	3,461
計			8,755	1,120	2,473	1,727	14,075

*印は、救急救命士の特定行為

救助出動状況

出動件数 94 件で前年比 24 件増加し、救助人員についても 46 名で前年比 12 名増加しています。

年別 \ 区分	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)	出動台数 (台)	出動人員 (人)
令和 3 年	94	62	46	287	896
令和 2 年	70	45	34	209	612

地区別救助出動件数

三木地区が 28 件と最も多く、次に自由が丘地区の 17 件となっています。
最も少ないのは、細川地区の 1 件です。

種別 地区		火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による事故	その他	合計
三 木		1	9	1	1	14	2	28
三 木 南			4			2	1	7
別 所			4		1	4		9
志 染			6			1	3	10
細 川						1		1
口 吉 川					1	1		2
緑 が 丘			1			4		5
自由が丘		2	2			13		17
青 山		1				3		4
吉 川		2	3	1		2		8
管 外								0
そ の 他			3					3
計	出動件数	6	32	2	3	45	6	94
	活動件数	6	20	2	1	27	6	62
	救助人員	1	24	2	1	12	6	46

発生場所別救助出動件数

住居での事故等が 50 件で全体の 53.2% を占め、次に道路での事故が 26 件となっています。

場所 \ 種別	火災	交通事故	水難事故	機械による 事故	建物等による 事故	その他	合計
屋 内	住 居	5			43	2	50
	その他			1	1		2
屋 外	高速道		3				3
	道 路		25			1	26
	池川等		1	2			3
	その他	1	3		1	3	9
地 下							0
そ の 他				1			1
合 計	6	32	2	3	45	6	94